

Net Volante

TA / REMOTE ROUTER
RTA52i

*サッカーでは、チームの攻守の司令塔役を Volante (ボランチ) と呼びます。
ネットボランチRTA52iは、スモールLANの司令塔です。

ニュースや旅行、
株式やアーティスト情報など
利用するとますます便利に
なってきたインターネット。使ってみるとや
められないメール。購入しやすくなった
パソコン。賢く電話を使えるISDN。
これらを組み合わせて活用するのに
役立ちたいネットボランチ
RTA52iです。

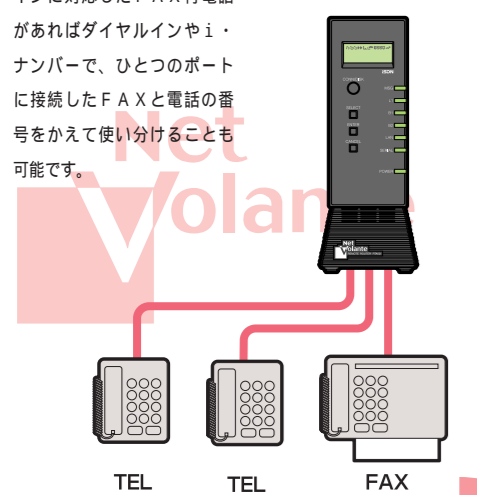


LANも電話もインターネットも。よくばりコミュニケーションには、「ネットボランチRTA52i」。

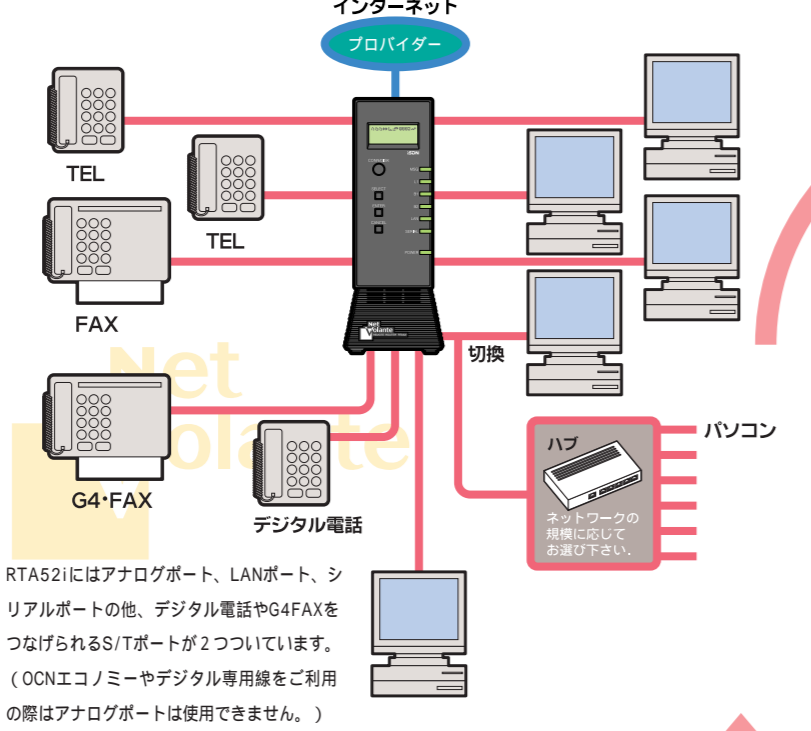
ネットボランチは、ヤマハRTシリーズルータの技術を継承した、コストパフォーマンスの高いオールインワンルータです。

1 電話をつなごう。

RTA52iには電話やFAXをつなぐアナログポートが3つ。どのポートからも受発信できます。(同時に通話できるのは2つ)それぞれのポートにつなげた電話の間で内線通話や、外からの電話の転送ができます。もちろんi・ナンバーやナンバー・ディスプレイに対応しています。さらにPB / モデムダイヤルインに対応したFAX付電話があればダイヤルインやi・ナンバーで、ひとつのポートに接続したFAXと電話の番号をかえて使い分けることも可能です。



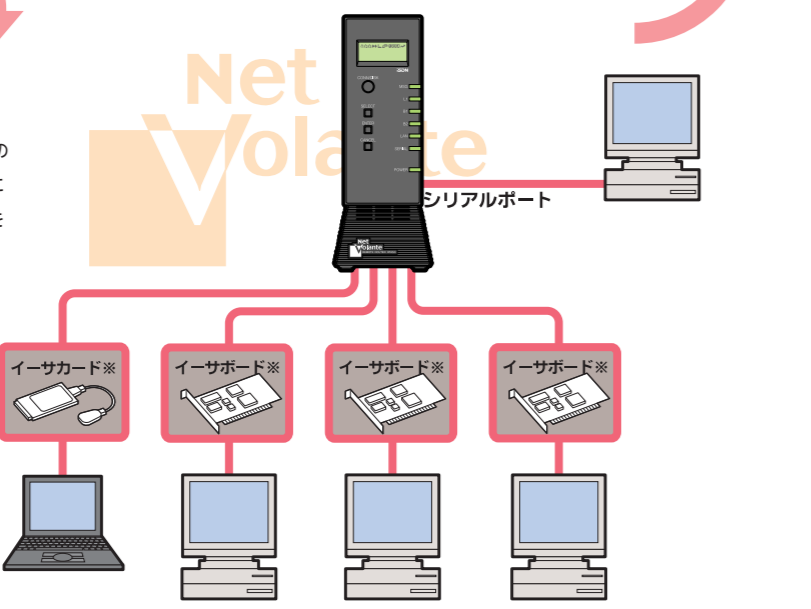
3 全部のポートを使ったら...



RTA52iにはアナログポート、LANポート、シリアルポートの他、デジタル電話やG4FAXをつなげられるS/Tポートが2つあります。(OCNエコノミーやデジタル専用線をご利用の際はアナログポートは使用できません。)

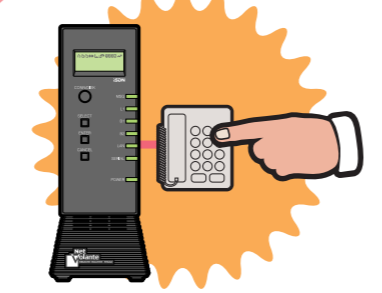
2 パソコンをつなごう。

RTA52iにはパソコンをつなぐためのLANポート(ハブ)が4つ。4台までのパソコンをつなぐことができます。5台以上使いたいときはLAN第4ポートにもうひとつハブ(別途購入必要)をつけてそのハブに4台目からのパソコンを接続して使えます。(ハブ第4ポートは、パソコン接続とハブ接続、切替可)
LANポートにパソコンをつなぐにはデスクトップならイーサボード、ノートブックならイーサカードが必要です。(イーサボード、イーサカードは別途購入が必要ですが、パソコンの機種によっては最初からついてくる場合もありますのでパソコンのマニュアルでご確認ください。)
もしパソコンは1台だけで、イーサボードやイーサカードがなければシリアルポート(RS232C)に接続してRTA52iをTAとして使うことも可能です。(パソコンにRS232Cポートが必要です。)



4 設定しよう。

パソコンの設定とルータの設定。インターネットを利用するにはプロバイダへの接続のための設定を、TA接続の場合はパソコン側に、ルータ接続の場合はRTA52i側に行っておく必要があります。ルータ側の設定は接続するパソコンごとに行う必要はありません。付属のCD-ROMに入っている「パソコンセットアップユーティリティ」を使うとパソコン側の設定がとても簡単に行えます。*注1
*注1「パソコンセットアップユーティリティ」はWindows95/98、MacOS8.0以降に対応しています。その他のOSの場合は、各OSでの設定機能をご利用ください。



電話機でアナログポートの設定
パソコンがなくともとりあえず電話だけでISDNを利用したいとかアナログポートの設定にパソコンを立ち上げると面倒といった場合は電話機のプッシュボタンを使ってアナログポートの設定ができます。その際RTA52iの液晶画面に設定内容が表示されます。

項目	設定	説明
電話機設定機能一覧		
電話機設定機能	ON/OFF	電話機設定機能のON/OFFを設定します。
自動接続機能	ON/OFF	自動接続機能のON/OFFを設定します。
自動再接続機能	ON/OFF	自動再接続機能のON/OFFを設定します。
自動転送機能	ON/OFF	自動転送機能のON/OFFを設定します。
自動転送回数	1~99	自動転送回数を設定します。
自動転送時間	1~99	自動転送時間を設定します。
自動転送先	1~99	自動転送先を設定します。
自動転送先番号	1~99	自動転送先番号を設定します。
自動転送先ダイヤル番号	1~99	自動転送先ダイヤル番号を設定します。
自動転送先ダイヤル時間	1~99	自動転送先ダイヤル時間を設定します。
自動転送先ダイヤル回数	1~99	自動転送先ダイヤル回数を設定します。
自動転送先ダイヤル時間	1~99	自動転送先ダイヤル時間を設定します。
自動転送先ダイヤル回数	1~99	自動転送先ダイヤル回数を設定します。

プロバイダの選択

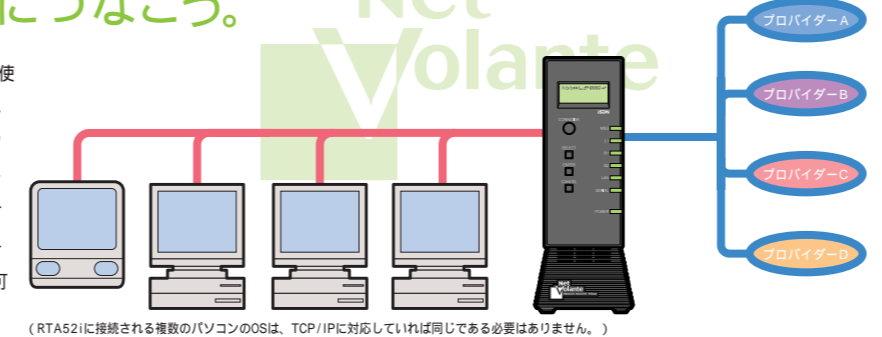
ルータの設定
ブラウザで簡単設定
電話の設定やインターネットを利用するためのプロバイダへの接続設定、メール転送、基本的なLAN間接続などの設定がブラウザにより簡単にできます。

ブラウザで確認できる様々な管理情報
RTA52iのブラウザで回線使用料金情報や電話着信履歴(最大100件)、プロバイダ接続がうまくいかなかった場合のエラー理由などをみることができます。(回線使用時に回線側から通知される料金情報を利用しているため、割引サービスなどに加入している場合は実際に請求される利用料金と異なる場合があります。)

その他の設定
ブラウザ画面で設定できない様々なルータの機能はルータコマンド、ATコマンド(TA用)、で設定できます。コマンドの説明は付属のCD-ROMにはいっています。

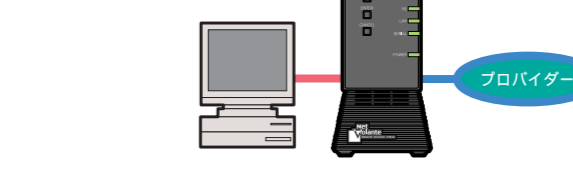
5 インターネットにつなごう。

RTA52iはISDNのBチャンネル1回線(64kbit/s)を使ってLANポートにつながった複数のパソコンでインターネットを利用することができます。もちろんそれぞれのパソコンが別々のホームページを見ることができます。Bチャンネル1回線ごと別々に2つのプロバイダに同時に接続することも可能です。また、2つのBチャンネルを同時に一つのプロバイダに接続するMP接続(128kbit/s)も可能です。



6 パソコンは、メールのためだけ...の方へ。

着信メール自動確認機能
設定した時刻にRTA52iが自動的にプロバイダに接続し着信メールの有無や数を確認します。確認結果をLEDと液晶で知ることができます。



メール転送
着信メール自動確認機能で確認したメールを設定しておいたメールアドレスへ自動的に転送することが可能です。(転送元のメールは削除しません。)



7 通信料金が気になる方へ。

RTA52iは通信時間、通信料金、発信回数を管理し、設定された時間や料金、回数になったらプロバイダへの接続をしないといった接続制限機能もっています。接続/切断時に内蔵ブザーを鳴らすことも可能です。また累積料金をRTA52iがメールで通知する機能もっています。

9 外出先から自分のパソコンのデータを見よう。

RTA52iはPHSのプロトコルPIAFS 32kと64kに対応しています。モバイルコンピュータにPIAFS対応のPHSをつけて外出先からRTA52iに接続されたパソコンに32kbit/sまたは64kbit/sでアクセス可能です。(携帯電話ではデータ送受信は行えません。)

8 RTA52iにつないだ複数のパソコン間でデータの共有をしよう。

RTA52iのLANポートにつないだパソコン同士はデータの共有が可能です。また、TCP/IPプロトコルにより回線をつなげたRTA52iに接続されたパソコンとのデータ共有も可能です。このときの設定はブラウザ画面で行うことができます。また図のようにRTA52i同士または相手がヤマハのRTシリーズルータであれば相手へのコールバックの要求を無課金で行うことも可能です。

